

Bonjour

ボンジュール!!

2013年
11月13日号

Vol.128



ここからどう見る? ハイイールド債券

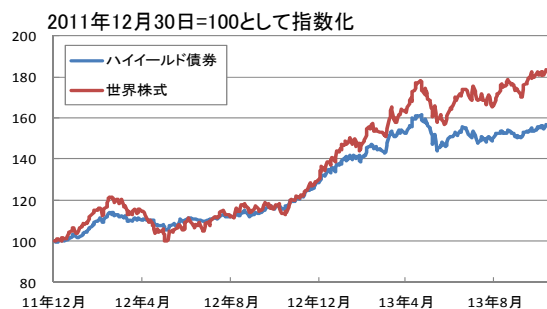
● 高利回りを求めて・・・

世界のお金は少しでも高い利回りを求めていつも行く先を探しています。「グレートローテーション(大転換)」といわれ、債券から株式へ世界のお金が大移動を始めていることも知られていますが、同じ債券の中でもより高い利回りを求めてハイイールド債券に人気が集まっているようです。

● ハイイールド? やっぱり株式! ?

債券投資は株式投資に比べてリスクが低いイメージがありますが、ハイイールド債券投資の場合は、高い利回りを期待するなら相応の信用リスクをとることは避けられません。過去2年間のハイイールド債券と世界株式のパフォーマンスを確認してみましょう。同じような軌跡を辿っていたグラフですが、今年、金利が上がり始めた頃にパフォーマンスに差が出てきています。

■ハイイールド債券と世界株式のパフォーマンス
(円換算、期間: 2011年12月30日~2013年11月12日)



● 金利上昇が意味すること

足元で景気の回復を示唆する指標が目立ち始めています。

景気が回復するという事は、株式投資には追い風、金利は上がっていく方向と考えるべきでしょう。

債券投資にとって、景気回復~金利上昇シナリオは債券価格の下落をもたらすため嫌気されるのが一般的です。

過去、ハイイールド債券はこのような局面で、違う動きをすることが多かったようです。景気回復が企業業績の改善に繋がれば企業の信用力は高まり債券価格の上昇が期待されたからです。

ですが、今後はどうでしょうか?

リーマンショック以後、米国をはじめ先進各国では金融緩和により人為的に金利を低く抑えてきました。その為、利回りは低下(価格は上昇)してきました。

量的金融緩和縮小が始まり、その箍が外れた時の利回り上昇(価格下落)は否めません。また、過去の金利水準から勘案すると、ハイイールド債券も既に金利は低く、これ以上下げる余地はあまり残されていないようです。

※ハイイールド債券: シティグループ・ハイイールド債券指数、世界株式: MSCI世界株指指数(配当込) ※MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
出所: ブルームバークのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。